

## 大規模酪農場における導入時自主検査によるヨーネ病摘発事例について

南丹家畜保健衛生所

○大谷健太 石森裕<sup>1)</sup>

【はじめに】過去にヨーネ病が発生した管内大規模酪農場において、導入時の自主検査で患畜を摘発したので、その概要を報告する。なお、導入時における本病の摘発は府内初である。【農場概要】当該農場は乳用牛約 500 頭を飼養。平成 11 年に家畜伝染病予防法第 5 条によるヨーネ病検査で患畜が摘発され、続発もあり清浄化までに 10 年間を要した。農場では本病の再侵入を防止するため、京都府牛のヨーネ病防疫対策要領に基づき、平成 19 年度から府外導入牛を対象に導入時の自主検査を継続して実施していた（これまでに 60 回 965 頭を検査し全頭の陰性を確認）。【今回の摘発事例】令和 4 年 9 月 9 日に府外から 15 頭を導入、既存牛と隔離して糞便を採取。同日、リアルタイム PCR 法によるヨーネ病検査を実施したところ 1 頭の陽性を確認し、直ちに他の陰性導入牛から隔離。翌日、鑑定殺し病理解剖を実施したところ腸管の軽度肥厚が認められ、病理組織学的検査においては腸間膜リンパ節内にもみ抗酸菌染色陽性の菌体を確認。以上の所見より、当該牛は発症初期であると推察された。農場においては、隔離場所等の徹底した消毒を行い、他の陰性導入牛 14 頭は牛体消毒後に開放した。【今後の対応】当該農場では導入時の自主検査を継続して実施。他の酪農場にも自主検査を指導し、水際での侵入防止対策に努めていきたい。

1) 現：農林水産技術センター畜産センター